

働き方改革

—あなたの常識、どう変える?—

Work style reform

—How would you change your common sense?—

特集担当主査：中出剛

特集担当副査：工藤正智、長谷川由布子

特集企画担当：大前慶恵、海崎真穂、桐生真澄、古賀健一、平尾美樹、本田卓、万名克実、森崎栄五朗、渡邊弘子

ABSTRACT

Following a five-year grace period, regulations on overtime caps will be applied to the construction industry beginning in April 2024. Given the so-called 2024 problem, the entire construction industry has worked to implement work-style reforms. This issue first covers the current situation and introduces the industry's challenges. Following the change in society, the industry, too, is searching for more flexible work styles. With the adoption of remote work following the COVID-19 pandemic, we are entering an era in which people are freed from the constraints of space and time, have more time for themselves, and can work in ways that allow them to better balance their personal lives and their careers. Preferences for work styles differ on an individual basis, meaning there is no single correct answer on the best way to work. This issue aims to provide readers with opportunities and clues to think about their own work styles through surveys, roundtable discussions, and articles on the subject.

建設業の2024年問題 どうなる?

「今年からお父さんの会社でも残業が減るようになるからよかったね」。就職活動中の娘が時事問題から得た話を振ってきた。「そうだね」と軽く応じたいが、建設業に携わる50代半ばの身として「どうなるのだろうか」という思いが頭をよぎる。

時間外労働の上限規制が、5年の猶予期間を経て2024年4月から建設業に適用される。慢性的な人手不足や担い手確保の課題を抱える建設業は、待ったなしの2024年問題を魅力向上の転換期と捉え、業界を挙げて「働き方改革」に取り組んできたが、どこまで達成できるのだろうか。

柔軟な働き方の時代

一方でワーク・ライフ・バランスやD&Iなど働き方・働き手の多様化を進める環境が醸成され、前時代の長時間労働をいとわない業界の価値観を打ち破る柔軟な働き方を模索する中、COVID-19の感染拡大により、難しいと言われていた在宅勤務があっけなく浸透した。

このような変化の中、われわれはデジタルツールを得て「空間」と「時間」の縛りから解放され、ICT・DXの進展による生産性向上のもとに「自分の時間」を獲得し、ライフイベントとキャリアを両立した働き方の時代を迎えようとしている。ただし、制度・立場の課題により

働き方改革

働く方々が、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を、自分で「選択」できるようにするための改革です。



図1 それぞれの個人に応じた多様で柔軟な働き方

未だ残る「避けられない残業」の実態や、家庭生活と仕事の両立のはざままで生じる働きづらさについての懸念の声があるとともに、号令下の残業制約に対して、「時間」に代わる仕事の評価、リアルなやりがいの実感や自己経験・成長機会の喪失に不安を覚える若手も多い。

誰もが望む働き方を 実現するために

各人の望ましい働き方は多様であり、どのように働くかの正解を示すことは難しい。本特集では、読者が自身の働き方を考えるきっかけやヒントを提供することを目的に、以下の四つのテーマで構成している。

一つ目は、建設業の「働き方改革」について理解を深めるため、官・民・地方の立場から、座談会で改革の現状と課題について率直に語っていただいた。さらに、有識者がわが国の企業全般の「働き方改革」について俯瞰した解説を加えている。

二つ目は、働き方に対するアンケート結果の紹介である。2313名の回答者が感じている本音をすくい取ること、働くことのリアルな現状

と求める働き方の分析を試みた。ぜひ読者ご自身の思いと比べながら、ご覧いただきたい。

三つ目は、これからの働き方をテーマとした若手座談会である。過去に本誌の連載「私の働き方」に登場した社会人と、これから働く学生が、自身の経験も踏まえた思いをぶつけあい、多くの示唆に満ちたキーワードが飛び出した。将来を担う若手の思いを一緒に感じながら読み進めていただきたい。

四つ目は、多様な働き方の取り組みとして、四つの記事を紹介する。男性育休・海外の働き方・マルチステージでの働き方・複線での働き方など、個人それぞれに合った半歩先の働き方が示されており、読者の働き方に対する常識を変えるきっかけになるのではないだろうか。

最後に、特集を振り返り、担当委員が感じたことを語り合い、未来の働く姿について思いをはせた放談で締めている。

答えはないが、読者も身近な仲間たちと本特集で感じたことを話し合っ、自分らしい働き方について、ぜひ思いをめぐらせてみませんか。